

発生土置き場の検討状況の総括表（JR東海による現時点での評価）

資料 1 別紙 2

※下記のうち、動植物の生息・生育状況に関しては、今後、生物多様性専門部会において、発生土置き場に係る動植物への影響とそれに対する環境保全措置の対話を実施する

名称	ツバクロ	イタドリ	藤島	中ノ宿1	中ノ宿2	中ノ宿3	剃石	扇沢
過去の使用履歴	水力発電所工事の骨材・生コンプラント跡	水力発電所工事の作業員宿舎跡	水力発電所工事の発生土置き場	水力発電所工事の作業員宿舎跡	水力発電所工事の骨材ストックヤード	水力発電所工事の骨材・生コンプラント跡	水力発電所工事の発生土置き場	伐採を実施
アクセス	林道からアクセス可能 (約1.4 km)	林道からアクセス可能(約7.3 km)	林道からアクセス可能(約16 km)	林道からアクセス可能(約17 km)	林道からアクセス可能(約18 km)	林道からアクセス可能(約19 km)	林道からアクセス可能(約20 km)	管理用道路によりアクセス可能であるが、本格的な利用には工事用道路が必要
地形	谷底平野で平坦	谷底平野で平坦	谷底平野で平坦 電力会社の工事で行われた盛土の上に計画	谷底平野で平坦	谷底平野で平坦	谷底平野で平坦	谷底平野で平坦	山腹斜面であるが、斜面の安定性を損なわない場所を選んで計画可能
地質（支持地盤）	ボーリングにより、良好な支持地盤（河床堆積物層）を確認 一部、液状化する可能性がある層を確認→工学的な対策にて対応可能	ボーリングにより、良好な支持地盤（沖積錘堆積物層）を確認	ボーリングにより、盛土された層の下部に良好な支持地盤（河床堆積物層）を確認 既設盛土部の一部で柔らかい層を確認→工学的な対策にて対応可能	ボーリングにより、良好な支持地盤（崖錘堆積物層）を確認	ボーリングにより、良好な支持地盤（河床堆積物層）を確認	ボーリングにより、良好な支持地盤（河床堆積物層）を確認	ボーリングにより、良好な支持地盤（河床堆積物層）を確認	ボーリングにより、良好な支持地盤（岩盤）を確認
周辺環境 (懸念事項と確認結果)	エルザマップ、地形判読より、発生土置き場に影響を与える可能性のある崩壊地形は後背地に確認されなかった。谷地形が確認されたが、降雨時の流水は確認されなかった。 以下、大規模な盛土の実施による懸念事項について確認を行った。 ○広域的な複合リスク ・地形判読等により周辺の沢について、上千枚沢に加えて同時に発生する他箇所の上土流が影響を与えるリスクは小さいと確認。 ・断層に伴う地震による対岸斜面崩壊のリスクに対しては事前対策ができないため、リスクを認識したうえで、地震時の点検や崩壊発生時の対応等について、発生し得る被害3つのパターンを想定。パターン毎の評価、対応方針を設定、整理し、モニタリングと事後対応を行う。 ○対岸の河侵食による斜面崩壊の発生リスク ・対岸が健岩部であり、侵食による崩壊が起きにくいことを確認。 ・発生土置き場がある場合の河川の流速は、上昇するが、瞬間的なものであることを確認。 ・豪雨発生時の対応として、事前対策はできないため、モニタリングと事後対応を行う。 ○土石流の緩衝地帯としての機能低下 ・シミュレーションの結果、河川内に土砂の堆積は認められるが河道閉塞しないことから、緩衝地帯の機能差は小さいことを確認。 ○深層崩壊に関するシミュレーション条件 ・150万m3の崩壊土砂量を想定して感度分析を実施。85万m3の場合と比較し最大水位の上昇はみられるが、発生土置き場の有無により結果の差は小さいことを確認。 ○ツバクロ発生土置き場の断層（推定）の影響 ・既往の調査資料を確認の上、県・部会委員と合同で現地確認を実施。ツバクロ発生土置き場の直下に活断層ではない左横ずれ断層（蝶番断層）が存在することを確認。 ・活断層ではないため、今後は断層の存在を踏まえ盛土の設計上要する対応を検討のうえ、引き続き対話する。 以上の通り、対応を要する事項はあるものの、回避が必須となる事項はない。	古い時期に形成された段丘上に位置しており北側の沢の影響はないと考えられる。発生土置き場背面には影響を与える可能性のある崩壊地形や沢地形は確認されなかった。	南北の2本の沢を回避しており、発生土置き場背面に平滑な緩い谷地形が確認されたが、古い時代には影響を与える可能性のある崩壊地形や沢地形は確認されないと考えられる。	－	発生土置き場に影響を与える可能性のある崩壊地形や沢地形は後背地に確認されなかった。	背面の斜面のクラック地形や小規模な地すべり地形は認められるものの段差等の変形地形は認められず比較的安定していると考えられる。	発生土置き場に影響を与える可能性のある崩壊地形は後背地に確認されなかった。谷地形が確認されたが、規模は小さく、工学的な対策にて対応可能。	扇沢周辺の稜線周辺の小起伏面及び山腹斜面に、溝状凹地や段差地形、地すべり地形が分布している。谷底部は岩盤が露頭しており、東の斜面部を除き特段の問題は確認されておらず、西側の稜線付近は比較的良好な岩盤が分布するものと推定される。
自然に係る区域指定	指定なし	指定なし	指定なし	県立自然公園 特別地域	県立自然公園 特別地域	県立自然公園 特別地域	県立自然公園 特別地域	指定なし
※動植物の生息・ 生育状況								
発生土置き場計画 (想定土量)	約360万m3 (他の置き場への分散により、今後土量の低減を検討)	約2万m3	約10万m3	計画なし	約5万m3	約17万m3	約15万m3	計画なし